

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 22日

事業所名 こどもプラス糸満教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	0	・大型遊具が設置できるほどの、恵まれたスペースがある。	
	2	職員の配置数は適切である	9	0	0	・常時配置は適切である。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	0	0	・個室や区切られた空間やスペースが少ない分、目隠しやマット等を用いながら特性に応じた対応を工夫して行っている。 ・各利用児童の持ち物とわかるように、写真カードや靴の名札を使用している。	・施設内の構造化や安全管理に引き続き力を入れ、利用児童の過ごしやすい環境を提供出来るよう努めていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	2	・PDCAサイクルはまだ踏襲できていないが、改善の意識はしっかりしていると感じる。	・今後はPDCAサイクルが踏襲できるように取り組んでいく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	1	・開所して1年経っていない為、評価表による改善実施例がないが、保護者から意見が出た際は改善に努めている。	・今年度開所し、初めて評価を実施している。次年度の業務改善につなげていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	5	・開所して1年経っていない為、評価表による改善実施例がないが、保護者から意見が出た際は改善に努めている。 ・今回初めて保護者へ評価してもらう機会を得たので、業務改善につなげていきたい。	・今年度開所し、初めて評価を実施している。ホームページ等を用いて内容を公開する予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0	5		・現在実施していないので、社内で相談しながら検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	0	・月2～3回、FCの研修を職員が受講する機会がある。それとは別に、姉妹教室の専門職が講師となった研修や、外部の研修を受講する機会が設けられている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	0	・主に利用契約やモニタリングの際にアセスメントを取り、日々の様子と照らし合わせながら個別支援計画の作成を行っている。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	1		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	2	・その日の立案担当が中心となって可能な限り職員全体で活動立案や相談などを行っている。 ・メニューを複数名で立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	0	・運動担当を日ごとに換え、固定化しないように工夫している。 ・各職員の意見を取り入れながら活動プログラムを検討している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	0	0		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	0		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	0	・朝礼の時間や適宜ミーティングを行い、確認している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	0	・終礼を行い、その日に起きた事や振り返りを共有している。 ・終礼の時に1日ヒヤリハット等なかったか共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	0		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0	0	・半年に一回の個別支援計画更新の時期に実施し、計画の見直しをしている。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	9	0	0		
関係機関	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	0	・現場職員から様子や情報を収集し、管理者兼児童発達支援管理責任者が会議へ参加している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	0	0		
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	0	7	・該当児童なし。	・今後受け入れした場合、連携して対応できるよう体制作りを努めていきたい。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	0	0		
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	0	1		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関 や 保 護 者 と の 連 携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	2	・姉妹教室の児童発達支援事業所や、利用児童の併用事業所等と連携しながら、支援について助言や研修を受けている。	・今後は地域の児童発達支援センターとも連携や研修が受けられるよう整備していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	0	8	・屋外活動や送迎の際に関わる機会もあるが、頻度は限定的。	・屋外活動や送迎の際に関わる機会もあるが、機会としては限りなく少ない。次年度の改善点にしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	0	7	・年1回、市内の自立支援協議会へ参加している。	・今後は、管理者だけでなく職員全体で自立支援協議会への参画意識を持てるよう、実際に参加してもらう等取り組み方を工夫する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	0		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	0	5	・情報共有や簡易的な助言は行っているがプログラム化されたペアレント・トレーニングは現状行われていない。	・情報共有や簡易的な助言は行っているがプログラム化されたペアレントは現状行われていないので次年度の課題にしていきたい。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	0	・契約の際に、管理者より保護者へお伝えしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	1	・必要に応じて適宜対応している。 ・送迎時の申し送り、電話、オフィシャルLINEを利用し、相談しやすい環境づくりに努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0	9	・今年度は該当するような会や集りの場を設ける事が出来ていない。	・今年度は該当するような会や集りの場を設ける事が出来ていないので次年度以降の課題にしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	0	・対応できる職員や上位者へ適切に情報共有する事で、なるべく迅速かつ適切に対応出来るよう事業所全体として心掛けている。 ・相談時には管理者に直接つなぐよう周知している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	2	・月に1回、運動プログラムを配布し、毎月のスケジュール表、日々の活動報告を公式LINEにて随時発信している。	
35	個人情報に十分注意している	9	0	0	・個人情報の記載がある資料は、鍵のかかる棚で保管している。		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	0	・子どもの適正に合わせた接し方は、職員で日々話し合っている。保護者対応に関しては、電話、公式LINE、対面の中でそれぞれにあった共有をし、伝達している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	0	7	・運動療育体験会を年度内に2回行った。	・運動療育体験会を年度内に2回行ったが、地域住民との交流を主とした行事は実施できていないので、今後開催できるよう努力していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0	1	・マニュアル類を作成しているが、内外への周知面が弱い。	・マニュアル類の内外への周知を工夫していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	0	・年度内に2回、避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	0	・定期的な勉強会や研修の場を設けている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	0	5	・対象児童が居ないため、現状支援計画への記載はないが、マニュアルを作成し、職員間への研修や勉強会等を通して組織的な対応について共有し、保護者に対しては契約時に重要事項説明書を読み合わせしながら説明している。 ・身体拘束を行う児童の通所がないため、具体的な事例で拘束を決定する機会はないが、事例が生じた際は管理者が説明して作成する環境は整っている。	・やむを得ず身体拘束を行う対象児童が居ないため、支援計画への記載は特に行っていない。一方で、定期的に研修や勉強会を設けて、組織的決定や保護者への説明義務やその他必要事項の理解の周知は進めている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	4	・該当児童なし。契約時に管理者が保護者に必ず確認し、フェイスシートまたはお聴き取りシートに記入して全体に共有している。	・今後利用児童に該当する児童が出た場合、必要に応じた対応を取れるよう、受け入れ体制を整える。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	0	・ヒヤリハットの用紙に記載し、ファイリングするとともに、グループLINEへの共有やミーティングで状況説明や再発防止策について協議している。	